高齢者医療における AI の活用

特集「高齢者医療における AI の活用」
によせて

Topics about “The advantage of AI in healthcare for the elders”

藤田 伸輔

(日老医誌 2019; 56: 241)

深層学習 (Deep learning) が導入されてから人工知能 (AI) の研究およびその活用についての研究が急速に発展している。人間の顔を認識したり、障害物を検知したりするなど一部の分野ではすでに欠くことのできない技術となっている。医療分野でも画像診断を中心に AI の導入が始まっているが、今後さらに急速な進展を見せると期待される。本特集ではあえて画像診断分野は避けて、日々の診療に直結するカルテ記載分野における AI 導入について 4 人の研究者に論じてもらった。特集 1 では今井に ICD-11 の話題を提供していただいた。カルテ記載を AI で研究しようとしたときに真っ先に問題となるのが診断である。国際診断分類 ICD は AI に対応するための改訂作業は大変困難なものであったがついに完成した。特集 2 ではカル

テ記載の代表例として小林に精神科領域で行っている研究を紹介していただいた。AI 研究と実診療での疾病理解が同時進行している点に注目していただきたい。特集 3 では高柳にプライマリ・ケア医の立場から高齢者医療を論じていただいた。患者の愁訴、家族が発見した問題、身体所見や検査所見のほかに住宅環境や本人・家族・相談員との協議など多彩な情報と包括的判断が必要な高齢者医療現場での AI に臨床家が求めるものが明確になっている。特集 4 では臨床家が AI の専門家とタッグを組んでこれからエビデンスを見つけていくために臨床家が知っておくべきことをまとめた。この特集を通じて多数の読者が AI を用いた研究を身近に感じ、AI の専門家と協力して研究に着手することを祈念する。

千葉大学予防医学センター臨床疫学

連絡責任者：藤田伸輔 千葉大学予防医学センター臨床疫学 [〒260-0856 千葉市中央区支鼻 1-8-1]

e-mail: fujitan@faculty.chiba-u.jp

doi: 10.3143/geriatrics.56.241